

## 名探偵ごっこ

### 第3話 『お前は誰だ?』

きゃくほん：立川佳吾（トランク機械シアター）

カカン！

こばやし「ぜんかいまでのあらすじ。」

主人公「はんにんにあやつられた、こばやしさんをたすけためいたんていボク。なんとこばやしさんははんにんのかおをもくげきしていた！ヒントをてにいれ、ナゾにせまる！まってるはんにん！メガネはぜんぶ おみとおし！」

きめの音

こばやし「よ！めいたんてい！！」

主人公「いやあ、それほどでも。」

こばやし「じゃあこれが、はんにんののがおえです。どうか、はんにんをつかまえてください。それじゃ」

主人公「え？こばやしさんは！？」

こばやし「なんかさっきしょくばからでんわがあつて。」

主人公「ああ。ちょうりいんさんでしたっけ。」

こばやし「はんにんにあやつられているあいだ、むだんけっきんしてたみたいで。なので、ちょっと  
いってきます。」

主人公「え？てつだってくれないの？」

こばやし「これもぜんぶはんにんのせいです。みんながおいしいきゅうしょくをたべられるように、  
どうかはんにんを。おねがいします。いってきます。」

主人公「いってらっしゃい。なんだよー！この虫メガネのつかいかた、こばやしさんにぜんぶきこうとお  
もったのに。まあ、いっか！じみちにおじさんにきくか。あれ？おじさんどこいったんだろう？  
おじさん??」

ぬいぐるみがあらわれる

主人公「おじさん、こばやしさん、しごといっちゃったよ。」

ぬいぐるみ「そっかあ。こばやしさん、しごといつちやったのかあ。」

こえがあきらかにおんなのひとになっている

主人公「え？」

ぬいぐるみ「なんだい？」

主人公「どうしたの？そのこえ！」

ぬいぐるみ「・・・あれ？かぜひいたかなあ？」

主人公「・・・なんだ、かぜかあ。」

ぬいぐるみ「そうなのー。」

主人公「あ、そうだ、こばやしさんがね、はんにんののがおえいていったよ。」

ぬいぐるみ「そうなんだ。みたいみたーい。」

主人公「これこれ。」

ぬいぐるみにみせる。わけのわからないのがおえになっている

ぬいぐるみ「うわー。すごくかわいいこねえ。」

主人公「どこが？こばやしさんさん、えがへたなんだなあ。これじゃあぜんぜんわからないよ。」

ぬいぐるみ「そんなことないわよ。キュルンとしたおめめ。ぷっくりしたほっぺた。かわいいわー。」

主人公「どうしてそんなことわかるの？」

ぬいぐるみ「そんなのわかるにきまってるじゃない！」

主人公「え？」

ぬいぐるみ

「ん？」

主人公「おじさん、おじさんだよな？」

ぬいぐるみ「なにいつてるの？あたりまえじゃない??」

主人公「ははは。そうだよね」

ぬいぐるみ「そうですよ。ふふふふふふふ。」

主人公「チェンジ！めいたんてい！しんじつモード！」

音) めいたんていしんじつモード ボム

ぬいぐるみから、おんなのひとにかわる。

はんにん「あらあ？バレちゃった

★」主人公 「だれ!？」

おんがく

はんにん「はじめまして。わたし、くろとかげともうします。」

主人公 「おじさんは？」

はんにん「あのたんていさんなら、いまごろみちばたでねむってるんじゃないかしら。」

主人公 「そのぬいぐるみは？」

はんにん「これはもともとわたしのものなの。たんていさんをぬいぐるみにして、いっしょにあそぼうっておもったのにぜんぜんあそんでくれないんですもの。」

主人公 「そうなんだ。じゃあ、おじさんはぬいぐるみからもともどったってこと？みちばたでねむってるけど。」

はんにん「そうね。」

主人公 「なんだよかったー。それじゃああとは、おじんにまかせて。いっけんらくちゃくってことで。めでたしめでたし。」

主人公いなくなろうとする

はんにん「それじゃあ、あなたにはその虫メガネはもうひつようないわね。」

主人公 「ぎく！」

はんにん「だってそうでしょう？あなたのもくてきは、たんていさんをもともどしてあげることだもんね。」

主人公 「そ、そうだね〜。」

はんにん「あなたはその虫メガネで、なにをしようとしてたのかしら？」

主人公 「えっと・・・」

はんにん「ああ。あなたのすきな子が、だれがすきなのかをしろうとしてたんだっけ。そして、ほかの人を

すきだったらじぶんのことをすきになるようにできないかなあってかんがえてたんだ。」

主人公 「なんでそれを。」

はんにん 「わたしはね、こころがよめるの。」

主人公 「うそだ。」

はんにん 「ほんとうよ。」

主人公 「うそだあ！」

はんにん 「あんしんして。あなたのすきな子は、あなたのことがすきよ。」

主人公 「ほんとう！？やったー！」

はんにん 「よかったわね。」

主人公 「うそだー！そ、そんなうそに、・・・だ、だまされたりしないぞ」

はんにん 「うそじゃないのに。」

主人公 「じゃあ、ぼくがいま あたまのなかでかんがえていること、あててみてよ！」

はんにん 「いいわよ。」

主人公 「ぐぬぬぬぬぬぬぬぬぬ。」

はんにん 「なんだこのおんなの人、どこからあらわれたんだ。こわいこわいこわいどっかいけあっちい  
け。なんでこんなことになっちゃったんだ。そうだぜんぶおじさんのせいだ。おじさんがぼくの  
めのまえにあらわれたからだ。あー虫メガネなんてひろわなきゃよかった。なんでこんなこと  
に。あ。でも、すきってほんとうかな？ほんとうだったらいいな。いやいやなにかんがえてるん  
だ。いまはそんなことよりめのまえのこのおんなの人をどうにかしないと。」

主人公 かががどんどんきょうふにつつまれていく

はんにん 「どう？あってた？」

主人公 「ぜんぜん！！ひとつもかすってないし！！」

はんにん 「そう。ざんねんね。」

主人公 「ざんねんでした！さよーならー！」

はんにん 「はい、さようなら。」

じゅうをとりだすはんにん

主人公 「え？うそでしょ？」

はんにん 「うそじゃないわ。ほんとうよ。」

主人公 「そういうのはひとにむけちゃいけないだよ！」

はんにん 「そうね。でも、わたし、きょうあくはんだから。」

主人公 「チェンジ！めいたんてい！なんとかして！！」

はんにん 「オールストップビーム！！」

音)

主人公ストップモーション

はんにん 「びっくりした？これはね、たいしょうのじかんをすべてとめてしまうことができるはつめいひんなの。あびたら24じかん、カチンコチンにかたまっちゃうの。さて、これでたんてい虫メガネはわたしのもの・・・」

音) びりびり

はんにん 「なに！？」

はんにんもういちどさわろうとして 音) びりびり

はんにん 「まさか、さっきのやけっぱちで、なにかが さどうしたっていうの？

SE びりびり

はんにん 「とれない！とれない！なんでとれないー！！じゃまばっかりして。じゃまばっかりして。いいわ。24じかんご、もういちど、虫メガネをかけてしょうぶよ。こんどこそ。なにががなんでもわたしのものにしてやるんだから。」

はんにん さる

とまったままの主人公

主人公 「だれかー。たすけてー。つらいよおおおおおおお。」（くちをうごかさずにいう）

はかせ がやってくる（シルエット）

はかせ 「オールストップかいじょ じゃ。」

音) かいじょ のおと

主人公 「はあっ！たすかったー！！ありがとうおじいちゃん。」

はかせ 「れいにはおよばんよ。これはわたしがまねいてしまったじたいじゃからのお。」

主人公 「え？」

はかせ 「たのむ。くるとかげをたすけてやってくれ。」

つづく

エンディングきよく イントロがながれる

はんにん 「こどものあなたが わたしにかてるとでも？はやくたんてい虫メガネをわたしなさい。わ  
たさない？それならまずは、このうたとおどりをかんぺきにしなければね？」

《うた》

きょうから、キミは名探偵。どんなナゾも、かかってこ

い。

まいにちおきる できごとは ぜんぶ ほうんとうは たからもの。

あさはねむいよ。ずっとねむっていたい。だけどねてたら、ともだちにはあえない。

あそんで、ねむって、けんかして。べんきょうだってやってるよ。

いっぱいやることあって。へとへとにつかれちゃって。

やりたいこと さいごになって。なんだかいやになっちゃって。

でもね、わたしは、すきなこと さがしてく。

わたしのいちばんの たからもの。どこにあるんだ、みつけるぞ。

まいにち おきる できごとに、ぜんぶ ほんとうは つまってる。

きょうからわたしは名探偵。どんなナゾでもかかってこい。

まいにち おきるできごとは、ぜんぶ ほんとうは たからもの。

みつけるぞ。わたしは名探偵

